

証券コード 6524

世界に誇れる、ものづくり

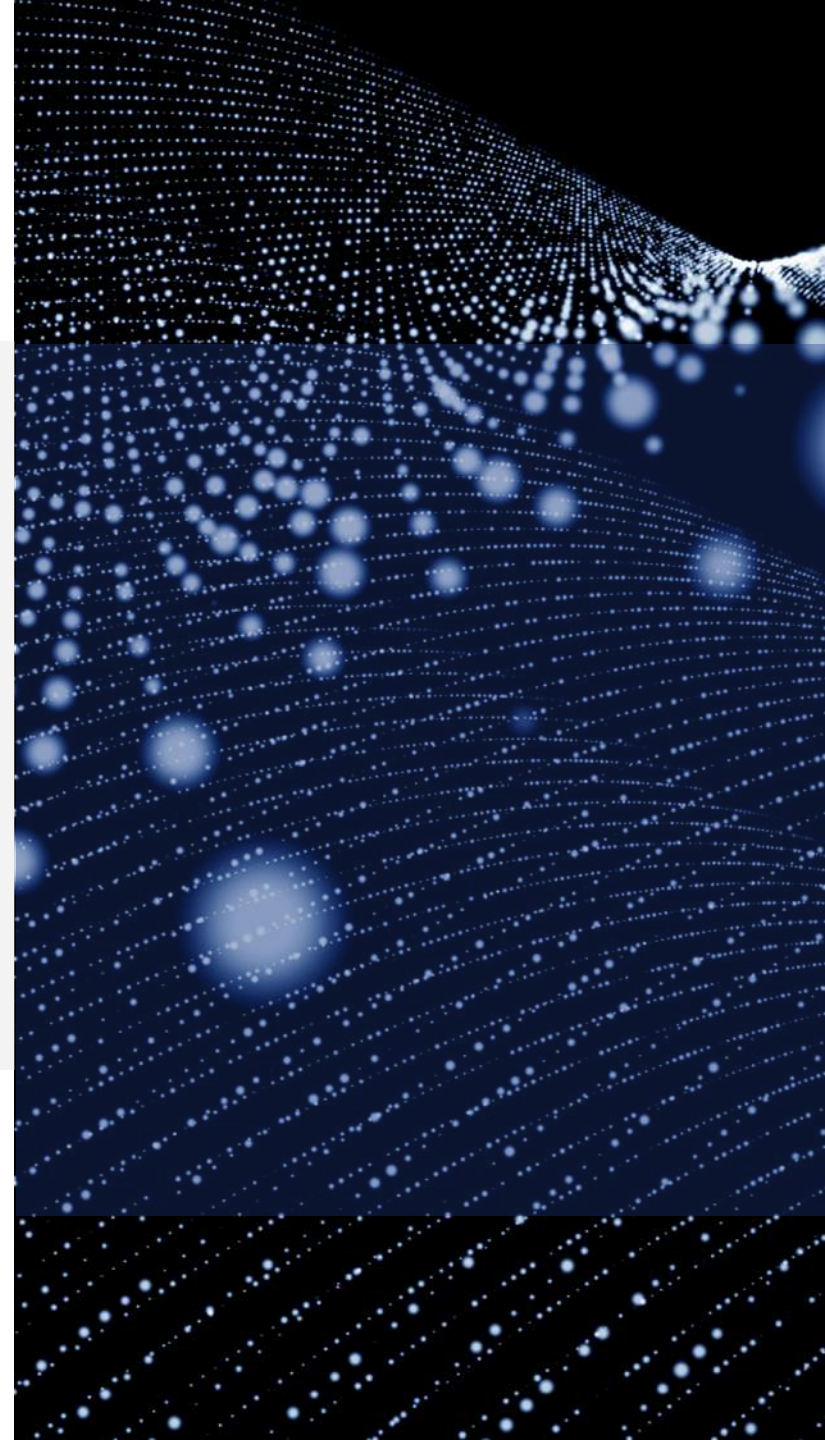
2025年12月期第1四半期 決算説明資料

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです

湖北工業株式会社
2025年5月12日

目次

I . 2025年12月期1Q 決算概況	P. 2
II . セグメント別の状況	P. 11
III . 参考情報	P. 29



I. 2025年12月期1Q 決算概況

2025年12月期(1Q)のハイライト

- ・主力2事業とも前年比で増収増益を確保、直前四半期比での売上が一時的な調整局面となったが、両事業ともに、2Qに向けて回復傾向
- ・リード端子事業は、欧州自動車市場の調整と中国不動産不況の影響を受け売上回復は緩やかだが、収益力は改善
- ・光部品・デバイス事業は、一部顧客の在庫調整の影響を受けたが、海底ケーブル投資が活況であり、顧客フォアキャストによると2Qに挽回の見通し

● マクロ環境

- ・世界経済は、米国・アジアの一部では堅調が続いたが、中国・欧州での停滞やエネルギー価格の高止まり、米国の関税政策の変化などにより混沌とした状態
- ・国内経済は、インバウンド消費や雇用関係改善などにより回復傾向続く

● 事業環境(1Q)

- ・自動車用エレクトロニクス市場では、欧州市場の停滞などを背景に厳しい状況が続く
- ・生成AI、データセンタ向けに情報通信機器市場の一部は好調だが、民生機器は中国不動産不況の影響により低迷
- ・海底ケーブル向けの新規プロジェクトは活発だが、プロジェクトのスケジュール変更や製品入れ替えに伴い、一部顧客から短期の発注調整の影響を受けた

● 業績(1Q)

- ・売上は、前年同期比4.3% (145百万円) の増収 (前四半期比は△6.0% (△227百万円) の減収)
- ・営業利益は、前年同期比5.5% (34百万円) の増益 (前四半期比は△12.3% (△94百万円) の減益)

損益計算書(1Q)の概要

前年同期比増収増益を確保したが、経常利益以下は為替差損により減益となった

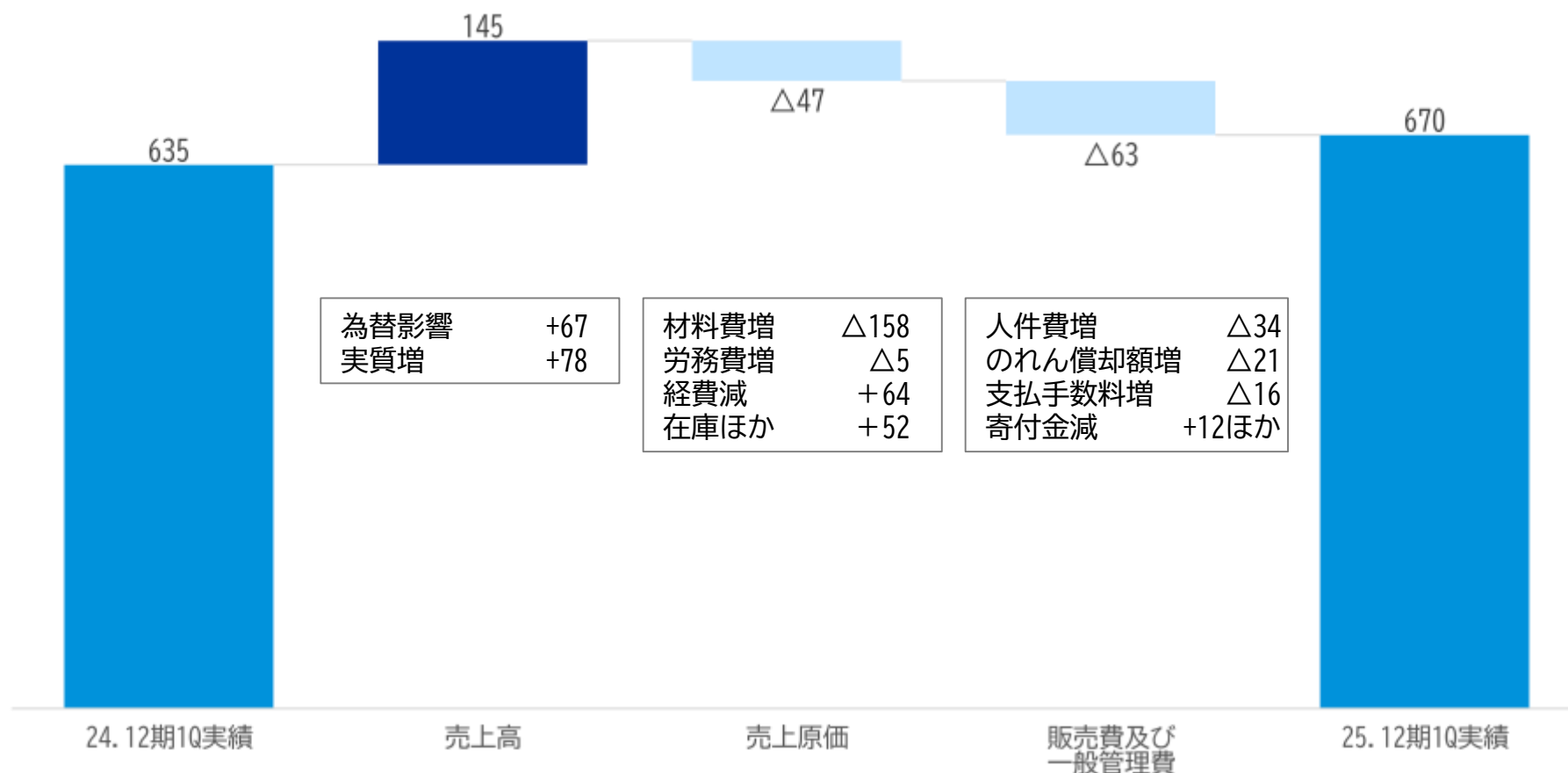
(単位：百万円)

<前年同期比較>					<前四半期比較>			
	2024年12期	2025年12期			2024年12期	2025年12期		
	1Q	1Q	対前年同期	前年同期比	4Q	1Q	対前四半期	直前四半期比
	(1月-3月)	(1月-3月)	増減		(10月-12月)	(1月-3月)	増減	
売上高	3,413	3,558	+145	+4.3%	3,786	3,558	△227	△6.0%
リード端子事業	1,929	1,978	+49	+2.5%	2,118	1,978	△139	△6.6%
光部品・デバイス事業	1,484	1,580	+95	+6.5%	1,668	1,580	△87	△5.2%
営業利益	635	670	+34	+5.5%	765	670	△94	△12.3%
営業利益率	18.6%	18.8%	+0.2pt	—	20.2%	18.8%	△1.4pt	—
リード端子事業	△13	114	+128	—	107	114	+7	+7.1%
光部品・デバイス事業	649	555	△93	△14.4%	658	555	△102	△15.5%
経常利益	1,130	301	△829	△73.3%	1,530	301	△1,228	△80.3%
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益	724	227	△497	△68.6%	1,027	227	△799	△77.8%
為替レート（期中平均）	148.62円/\$	152.56円/\$			152.37円/\$	152.56円/\$		

営業利益(1Q) の増減要因（前年同期比）

売上の増加がコストアップを吸収し、増益を確保

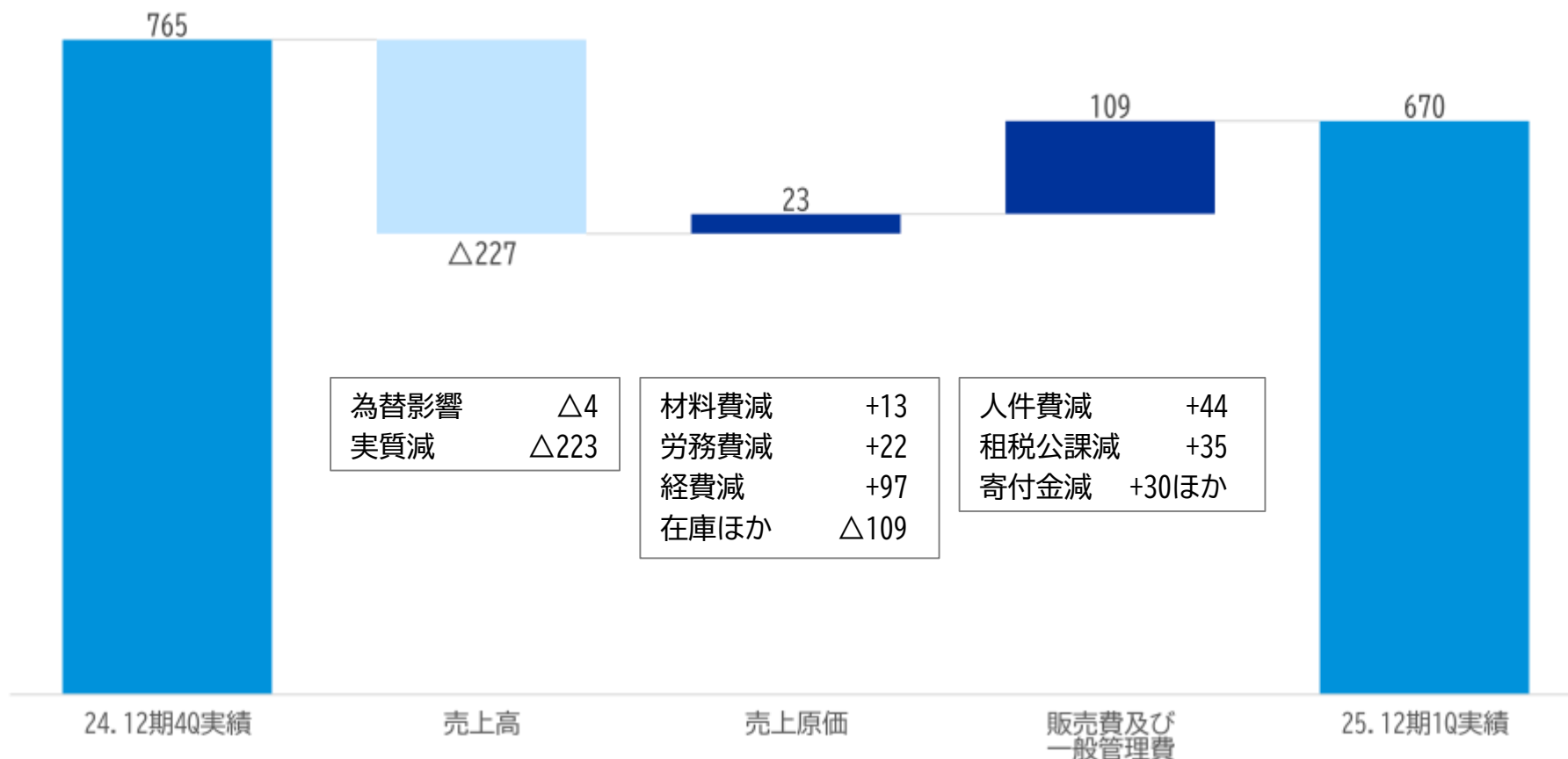
（単位：百万円）



営業利益(1Q) の増減要因（前四半期比）

リード端子、光部品・デバイス共に一時的な調整局面となり若干の減収減益

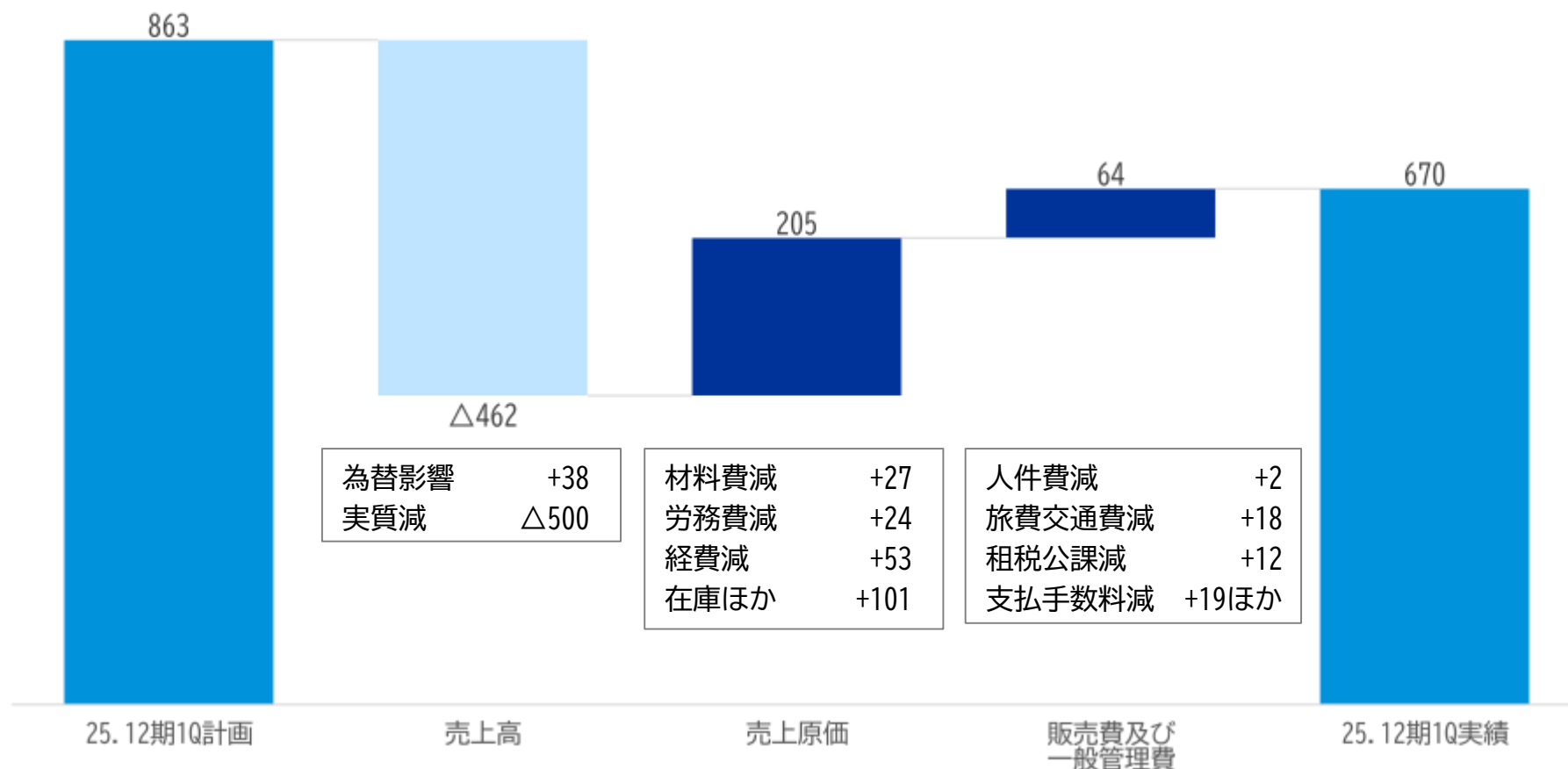
(単位：百万円)



営業利益(1Q) の増減要因 (計画比)

売上・利益ともに計画より下振れで着地

(単位：百万円)



貸借対照表(1Q)

(単位：百万円)

貸借対照表	24年12期末	25年12期1Q末	増減額	主な増減内容
流動資産	18,331	13,184	△5,146	現金及び預金 △3,738、有価証券 △1,000、 受取手形、売掛金及び契約資産 △278ほか
固定資産	10,353	10,830	+476	投資有価証券 +852、機械装置及び運搬具（純額） △192、 リース資産（純額） △137ほか
資産合計	28,684	24,014	△4,669	
流動負債	2,945	1,841	△1,103	賞与引当金 +124、買掛金 +224、未払法人税等 △995、 一年内返済予定の長期借入金 △127、短期借入金 △103ほか
固定負債	2,309	2,171	△137	リース債務 △127ほか
負債合計	5,254	4,012	△1,241	
純資産合計	23,430	20,001	△3,428	資本剰余金 △2,254、利益剰余金 △581、 為替換算調整勘定 △373、自己株式 △235ほか
負債・純資産合計	28,684	24,014	△4,669	

2025年12月期業績の見通し（現時点の進捗状況）

主力2事業ともに1Qは期初の想定を下回って推移したが2Q以降は回復の見通し

（単位：百万円）

＜為替感応度＞ 売上高80百万円/円 営業利益30百万円/円	2024年12月期	2025年12月期（計画）					
	実績	1Q（1月-3月） 実績	上期予想	下期予想	通期予想	対前年増減	前年比
売上高	15,924	3,558	8,344	9,574	17,919	+1,995	+12.5%
リード端子事業	8,403	1,978	4,498	4,799	9,298	+894	+10.6%
光部品・デバイス事業	7,520	1,580	3,846	4,775	8,621	+1,100	+14.6%
営業利益	3,939	670	1,920	2,665	4,586	+646	+16.4%
営業利益率	24.7%	18.8%	23.0%	27.8%	25.6%	+0.9pt	-
リード端子事業	403	114	326	420	746	+343	+85.1%
光部品・デバイス事業	3,536	555	1,594	2,245	3,839	+303	+8.6%
経常利益	4,856	301	1,623	2,850	4,474	△382	△7.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,252	227	1,082	1,924	3,006	△245	△7.6%
1株当たり当期純利益（円）	120.50	8.56	41.20	74.10	115.30		
為替レート（期中平均）	151.69円/\$	152.56円/\$	150.00円/\$	150.00円/\$	150.00円/\$		

● 現時点の状況

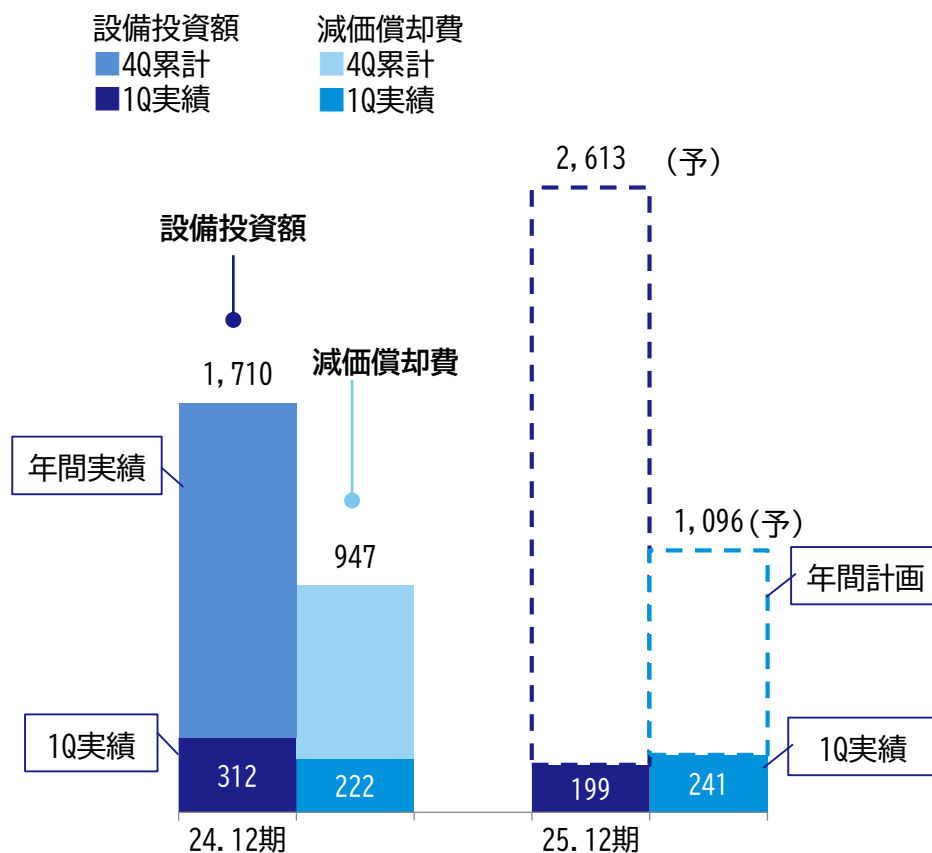
- ・ リード端子事業：市場の低迷が続き、回復力は弱い状況が続く。利益面では収益改善策の効果あり
- ・ 光部品・デバイス事業：1Qに生じた発注調整は、2Qに向けて解消を見込む

※＜為替感応度＞は、1米ドルに対して1円の変動が1年間続いた場合の試算値

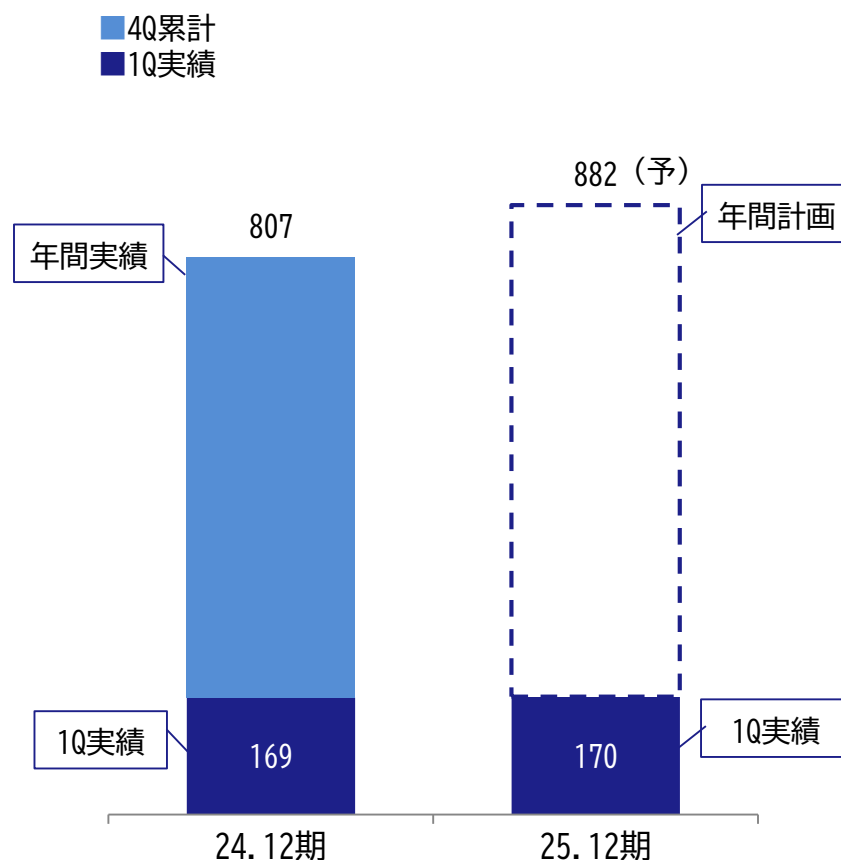
設備投資・減価償却・研究開発(1Q)

設備投資は期初計画より少なめの進捗

設備投資・減価償却費（百万円）



研究開発費（百万円）



Ⅱ. セグメント別の状況

セグメント別業績(1Q) - リード端子

市場は厳しい状況となったが、プロダクトミクス改善及び取引是正効果により、前年同期比増収増益

(単位：百万円)

	<前年同期比較>				<前四半期比較>			
	2024年12月期 1Q (1月-3月)	2025年12月期 1Q (1月-3月)	対前年同期 増減	前年同期比	2024年12月期 4Q (10月-12月)	2025年12月期 1Q (1月-3月)	対前四半期 増減	直前四半期比
売上高	1,929	1,978	+49	+2.5%	2,118	1,978	△139	△6.6%
営業利益	△13	114	+128	—	107	114	+7	+7.1%
営業利益率	△0.7%	5.8%	+6.5pt	—	5.1%	5.8%	+0.7pt	—

2025年12月期（1Q）の概況

● 厳しい事業環境が続く、市場の調整が続く

- ・ 売上は前年比プラスとなったが、欧州車載市場の低迷が継続したことに加えてアジアの春節もあり、直前四半期比では売上がマイナスとなった
- ・ 生成AI、データセンタなどは好調

● 当社の状況と収益改善への取り組み

- ・ 小口受注の見直し、歩留まり向上による限界利益率改善・設備総合効率（OEE）の改善進む
- ・ 「バリレス」ほか高付加価値製品は高機能コンデンサ向けに引き合いが増加、採用増加の兆し

2025年12月期当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

1. お客様、市場調査会社等からの情報に基づく当社の認識

	25年12月期当初（2月時点）コメント	2025/12期1Qの状況	2025/12期2Q以降の見通し
(1) アルミ電解コンデンサ市場全体 （主に日系顧客の状況）	● 足元は欧州車載市場向けなどがまだ模様だが、4月以降は回復の予定	➢ 米国関税政策による先行き不透明感もあり、市場は下押しした ➢ 高付加価値品の売上増加や不採算製品の価格是正が奏功し、金額面では前年比プラスとなった	➢ 受注回復は当初見通しより遅れ気味だが、中国PHV/EV市場が堅調、米国関税政策のマイナス影響は有るが全体的には2Q以降回復に向かう見通し ➢ 高付加価値品は、高機能コンデンサ向けに引き続き採用増加の見通し
(2) 用途別の動向	● 欧州車載の底打ちに加えてトヨタの生産回復もあり、1Qから堅調を維持 ● 生成AI、データセンタ向けアルミ電解コンデンサ市場は安定して伸びる見通し（前年比2ケタ増を期待） ● その他、産機、一般民生は厳しい状況が続くと予想	➢ 昨年後半からの欧州車載市場における調整が続き、厳しい状況が続いた ➢ 情報通信機器市場は、企業におけるAIサーバーを中心とするIT需要の拡大により好調に推移 ➢ 中国不動産市場の低迷による消費低迷 ➢ 産業機器市場においても回復が見られない状況が続いた	➢ 中国EV市場の堅調に加えて欧州車載市場でも回復の兆し ➢ 生成AI・データセンタ向けアルミ電解コンデンサ市場は引き続き好調に推移する見通し ➢ 不透明感が強い状況が続くが、産業機器市場などで回復の兆し

2025年12月期当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

2. 当社の経営環境

	25年12月期当初（2月時点）コメント	2025/12期1Qの状況	2025/12期2Q以降の見通し
(1) 生産	● 東莞をさらに増強し収益力を改善（2025年年間生産比率東莞50%、蘇州30%、マレーシア20%） ● 引き続き歩留り・可動率改善、切替ロス削減を進める	➢ 東莞工場での生産体制増強を継続 ➢ 海外3工場で生産効率に関するKPIが改善、限界利益率改善と固定費削減が想定以上に進んだ	➢ 東莞工場を引き続き増強、年度末には生産比率50%に引き上げ予定 ➢ ROIC指標の活用により、収益力改善のさらなるスピードアップをはかる
(2) 売上	● 海外自動車市場に向けての顧客サポート、マーケティングを強化 ● バリレスほか、漏れ電流低減・低抵抗に貢献する高機能リード端子の販売を強化	➢ 新製品「バリレス」の売上は目標に届かずだが、日系顧客向けの評価が進捗 ➢ その他の高付加価値品についても、ハイブリッドコンデンサ・EDLCなどの高機能コンデンサ向けに売上増加	➢ 海外営業体制強化プロジェクトを新設、中国ほか海外でのサポート体制を強化 ➢ バリレスほか、漏れ電流低減・低抵抗に貢献する高機能リード端子の販売に引き続き注力
(3) 技術	● 量産品試作に向けて開発拠点を本社に移管 ● 漏れ電流低減リード端子の開発	➢ レーザー溶接技術の開発拠点をAriel社から本社に移管、量産に向けての開発スケジュール管理を強化	➢ 2025年末までにEDLC用リード端子のサンプル出荷を開始予定



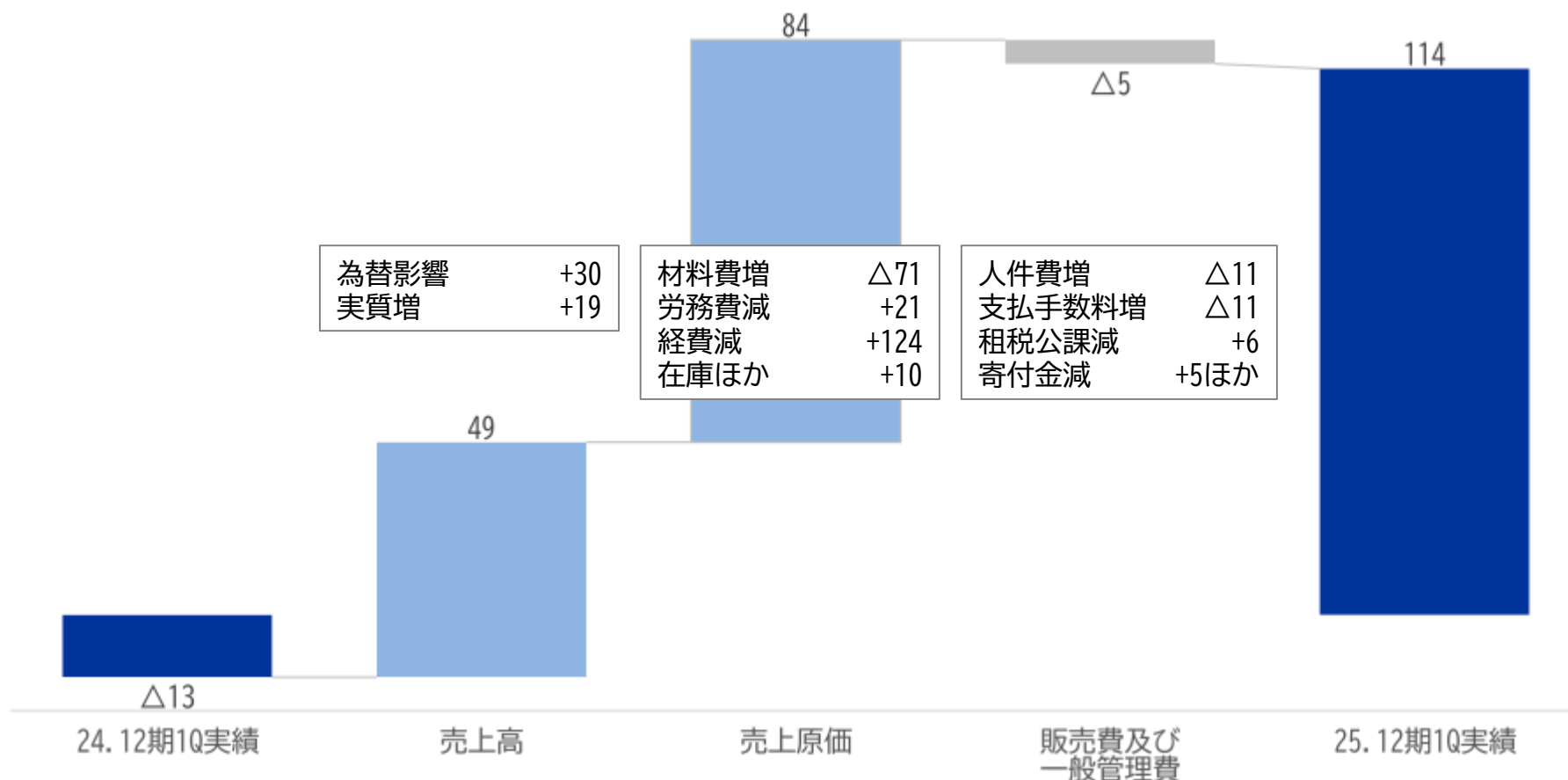
（開発中のレーザー溶接機）

セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因（前年同期比）－ リード端子

売上の回復は緩やかだが、損益面では改善が進んだ

（単位：百万円）

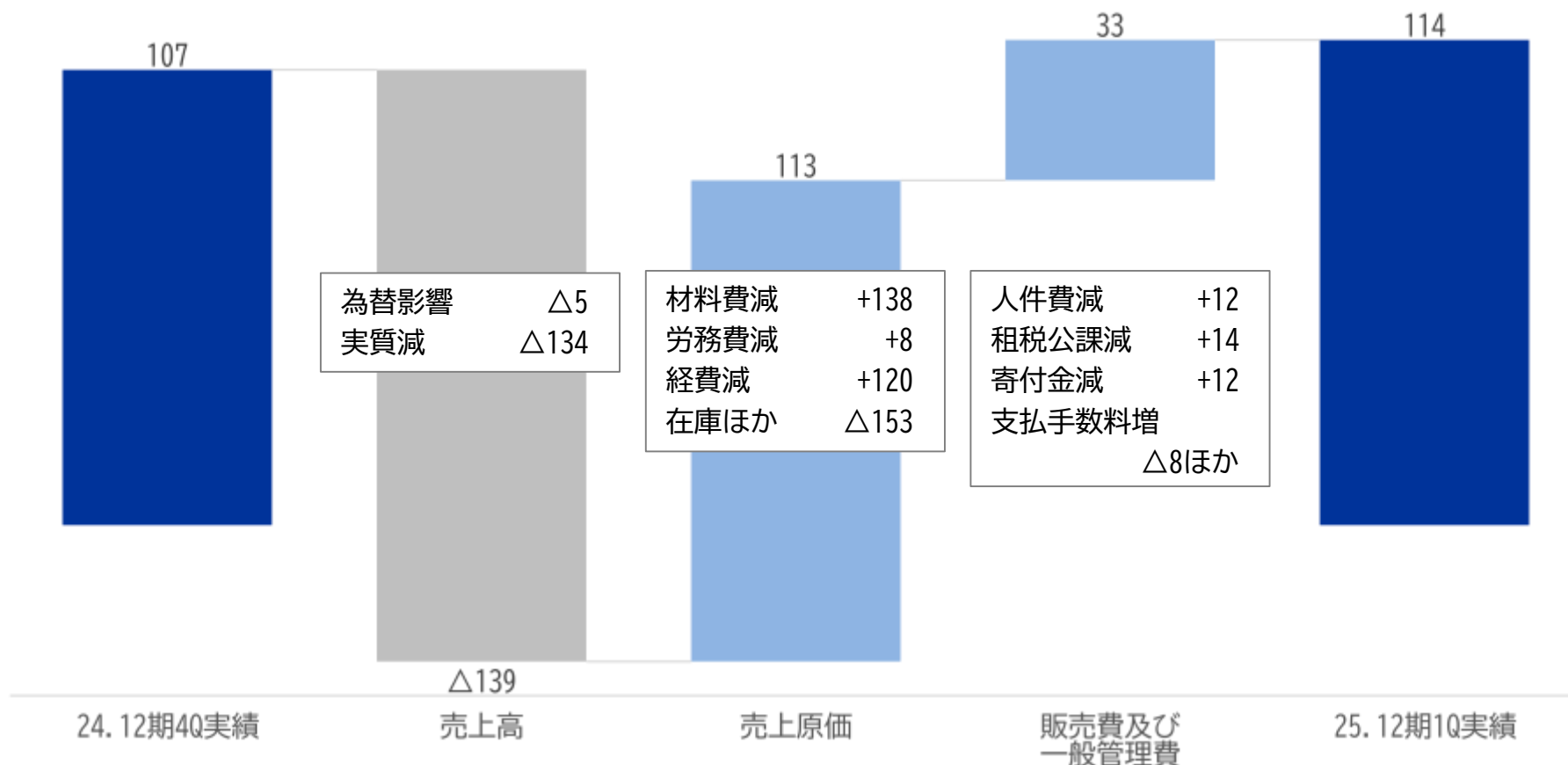


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因（前四半期比）－ リード端子

売上が減少したが、固定費、変動費削減により営業利益は若干増加した

（単位：百万円）

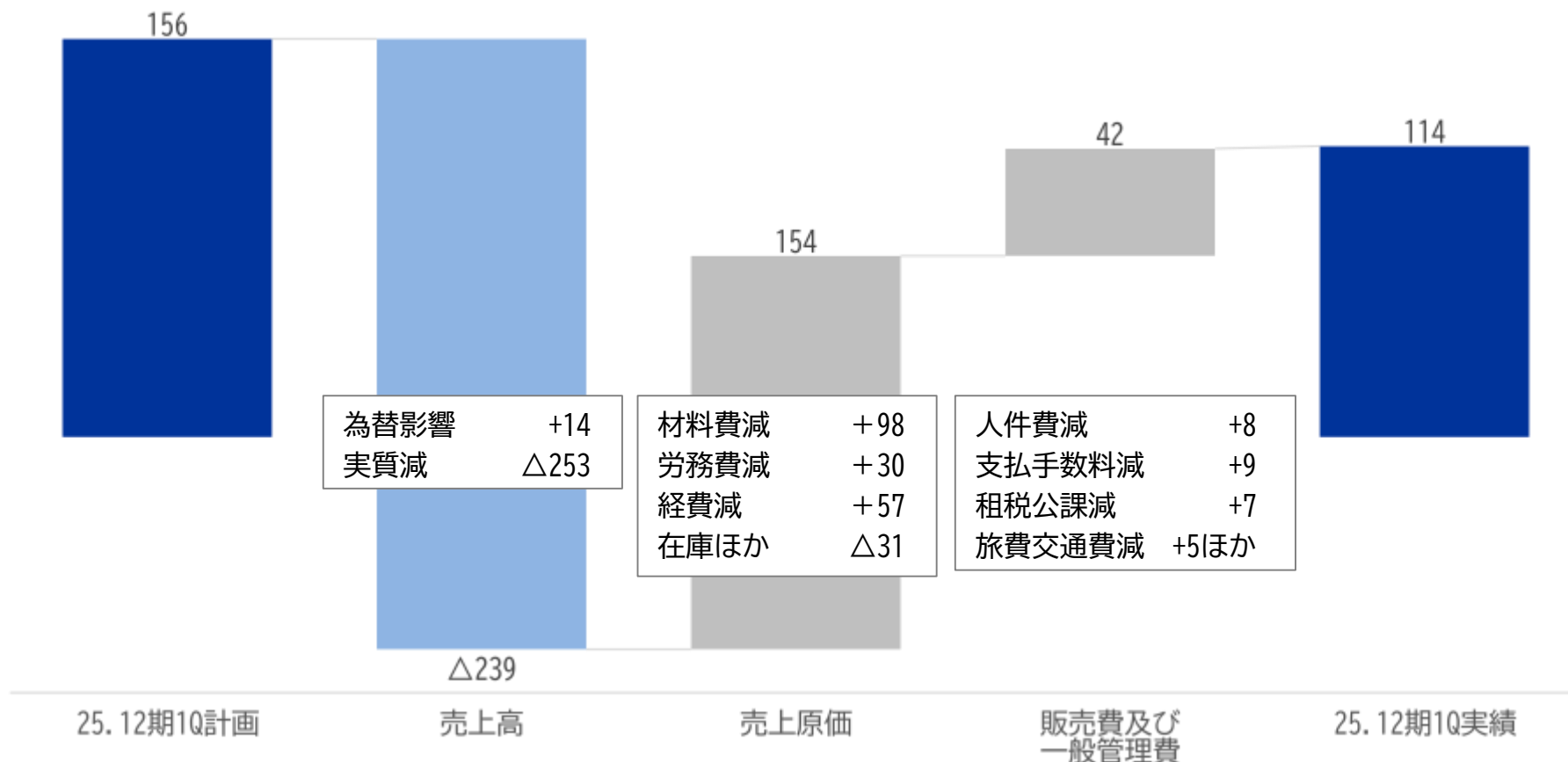


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因（計画比）－ リード端子

売上が下振れしたが、歩留り向上等コスト削減により減益幅は縮小

（単位：百万円）



リード端子事業の見通し

市場回復と生産効率・プロダクトミクス改善により、2Q以降の売上・利益は回復する見通し

セグメント業績

(単位：百万円)

	2024年12月期	2025年12月期（通期）					
	実績	1Q（1月-3月） 実績	上期予想	下期予想	通期予想	対前年増減	前年比
売上高	8,403	1,978	4,498	4,799	9,298	+894	+10.6%
営業利益	403	114	326	420	746	+343	+85.1%
営業利益率	4.8%	5.8%	7.2%	8.8%	8.0%	+3.2pt	—

2025年12月期1Qの状況及び現時点での見通し

- 2025年12月期1Qは、期初見通しを下回る進捗
- 欧州自動車市場の低迷は続く一方、生成AI・データセンタ向けは好調に推移した
- 市場の調整は1Qに底打ちし、2Q以降については回復。生産効率改善効果と合わせて業績は改善傾向となる見通し

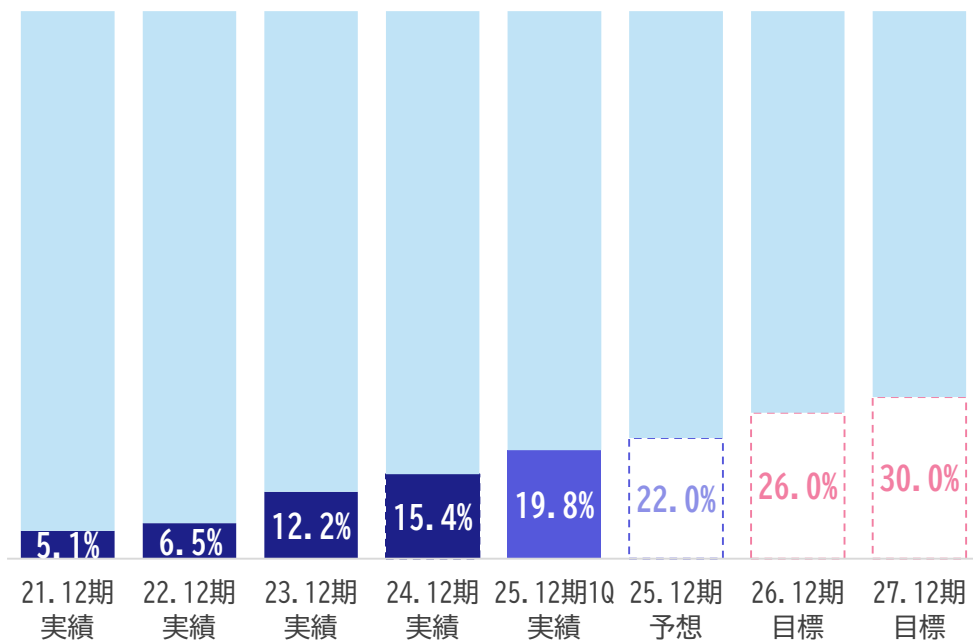
市場開拓による事業規模の拡大

高付加価値製品の売上比率改善、自動車市場向け販売を強化

新商品の売上比率

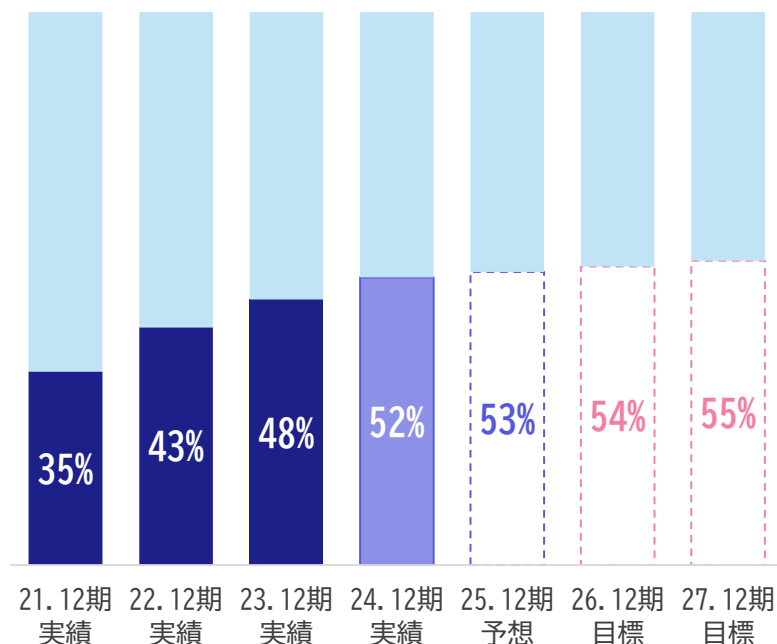


- ・売上比率は緩やかに上昇
- ・バリレスはハイブリッドコンデンサ向けに評価が進捗
- ・EDLCリチウムイオンキャパシタ向けなどラインアップ強化を進める



自動車市場向け売上比率（推定値）

- ・車載市場向けグローバルマーケットシェア95%維持
- ・海外車載市場での拡販を進める

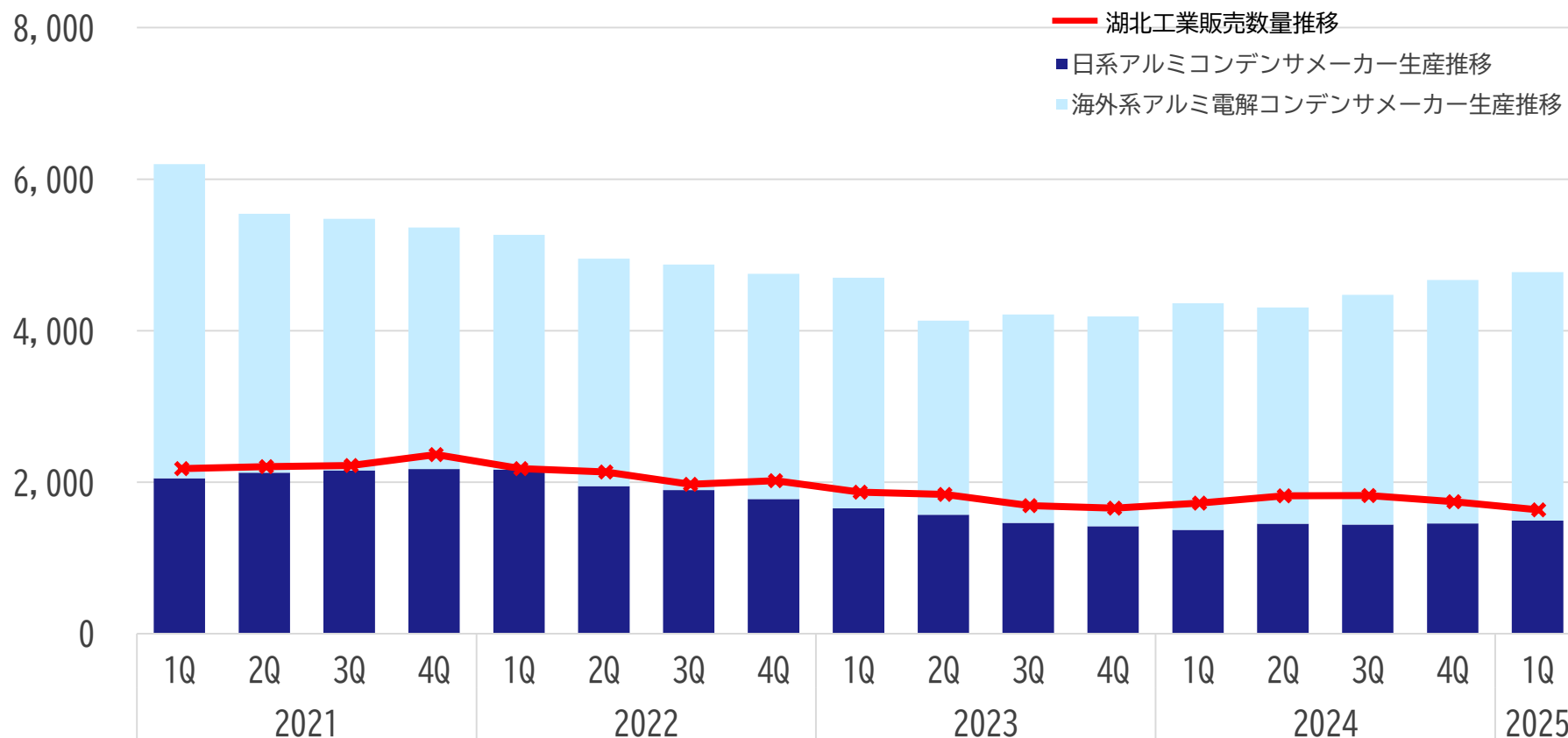


2025年12月期(1Q)の事業環境

アルミ電解コンデンサのグローバル生産、調整が終了し回復傾向

小型アルミ電解コンデンサのグローバルマーケットと当社の販売数量推移

(百万個)



※リード端子はコンデンサ1個あたり2個仕様の為、コンデンサ数量に換算して表示

※アルミ電解コンデンサ生産数量は各四半期ごとの最終月の実績、リード端子販売数量は四半期における月平均（当社推定）

セグメント別業績(1Q) - 光部品・デバイス

売上は前年同期比6.5%の増収、短期的な調整局面となり期初計画を下回る進捗

	<前年同期比較>				<前四半期比較>				(単位：百万円)
	2024年12月期	2025年12月期		対前年同期 増減	前年同期比	2024年12月期	2025年12月期		
	1Q (1月-3月)	1Q (1月-3月)				4Q (10月-12月)	1Q (1月-3月)	対前四半期 増減	
売上高	1,484	1,580	+95	+6.5%		1,668	1,580	△87	△5.2%
営業利益	649	555	△93	△14.4%		658	555	△102	△15.5%
営業利益率	43.7%	35.2%	△8.5pt	—		39.5%	35.2%	△4.3pt	—

2025年12月期1Qの概況

● 業界・市場動向

- ・ 海底ケーブル市場では、一部プロジェクトのスケジュール変更や小型製品への切り替えに伴う既存製品の在庫調整など、短期的な調整が見られた
- ・ 生成AI・データセンタ投資の活況を受け、光部品市場は好調に推移

● 外部環境の変化とその対応

- ・ 2Q以降、海底ケーブル用光部品・デバイスの売上は増加の見通し
- ・ ファラデー回転子の需要が増加し、生産能力を増強するなど、供給体制を強化
- ・ 情報通信の拡大ニーズに対応した複合製品、モジュール製品の開発を進める

2025年12月期当初想定vs現在の状況比較 - 光部品・デバイス事業

1. 市場環境、受注動向

	25年12月期当初（2月時点）コメント	2025/12期1Qの状況	2025/12期2Q以降の見通し
(1)市場動向	- データセンタ増に伴い海底ケーブルプロジェクトも増加を予想 - 海底ケーブル向け光アイソレータ、光フィルタ共に堅調な売上が続く見通し - データセンタ向け光部品の需給ひっ迫が続く見通し	- 海底ケーブルプロジェクトへの投資は引き続き好調 - 一部顧客において過剰発注の反動減が発生、計画比の売上は減少 - データセンタ向け光部品の需要は好調に推移	2026年に向けて新規海底ケーブルプロジェクト向けの引き合いが増加 - 一時的な調整は終了し、2Q以降売上は回復に向かう見通し - データセンタ向け光部品の需要は引き続き好調に推移する見通し

2. 当社の経営環境

	25年12月期当初（2月時点）コメント	2025/12期1Qの状況	2025/12期2Q以降の見通し
(1)製品開発	- 複合品・モジュール品の評価進行、2026年から量産開始予定 - 小型アイソレータの販売比率上昇、多芯化に向けて採用拡大 - PLZTを用いた高速光スイッチの開発進行	- 複合品、モジュール品の開発進行、顧客の評価・フィードバックへの対応を実施中 - PLZT関連、試作設備のリニューアルを実施	- 顧客の要望に合わせて詳細仕様の改善を継続、2026年量産に向けて開発継続 - 年央に予定されていた小型アイソレータへの切り替えが若干後ずれ、旧製品との並行販売が当面続く
(2)生産性他	- 半自動装置2号機を5月から立ち上げ、年度末に対象工程の80%を自動化 - データセンタ向け光部品の生産能力増強、売上増加 - 高純度石英ガラス（SSG®）製品の売上増加	- データセンタ向け光部品の前工程、基板サイズの大口径化進行 - 高純度石英ガラス製品の生産能力大幅増強に着手	- 半自動装置2号機は、2Qに立ち上げの予定 - データセンタ向け光部品の生産能力を引き続き増強、売上増加 5月開催のフォトリソ展に出展（予定）、高純度石英ガラス（SSG®）製品の拡販を継続

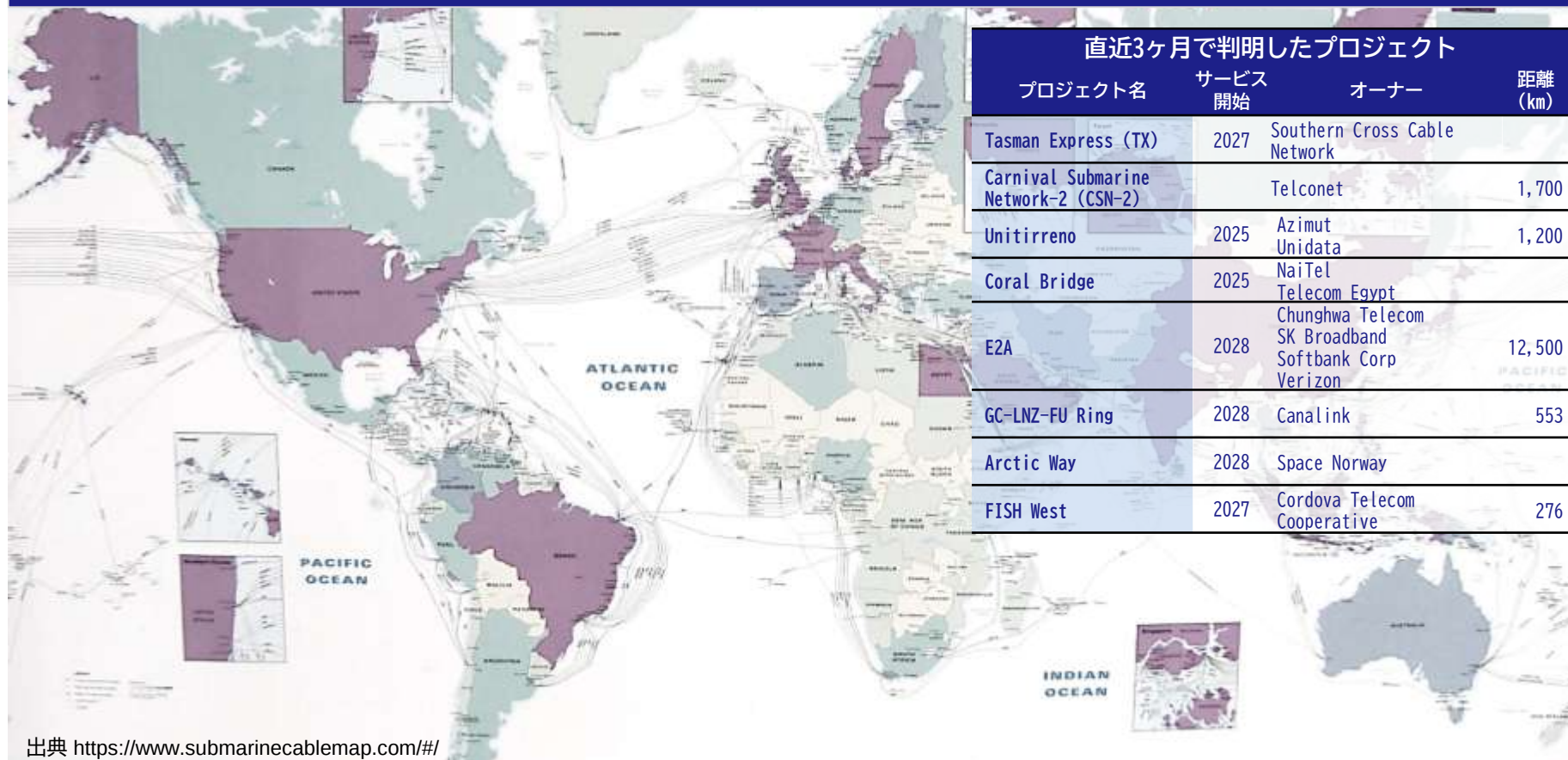
新規敷設が続く海底ケーブルネットワーク

通信キャリア、GAFAMに加え、データセンターからの新規プロジェクトが引き続き増加

* 図中の各線が海底ケーブル

長距離海底ケーブルシステムの全体図

2025年4月現在



※出所) TeleGeography 「Submarine Cable Map」

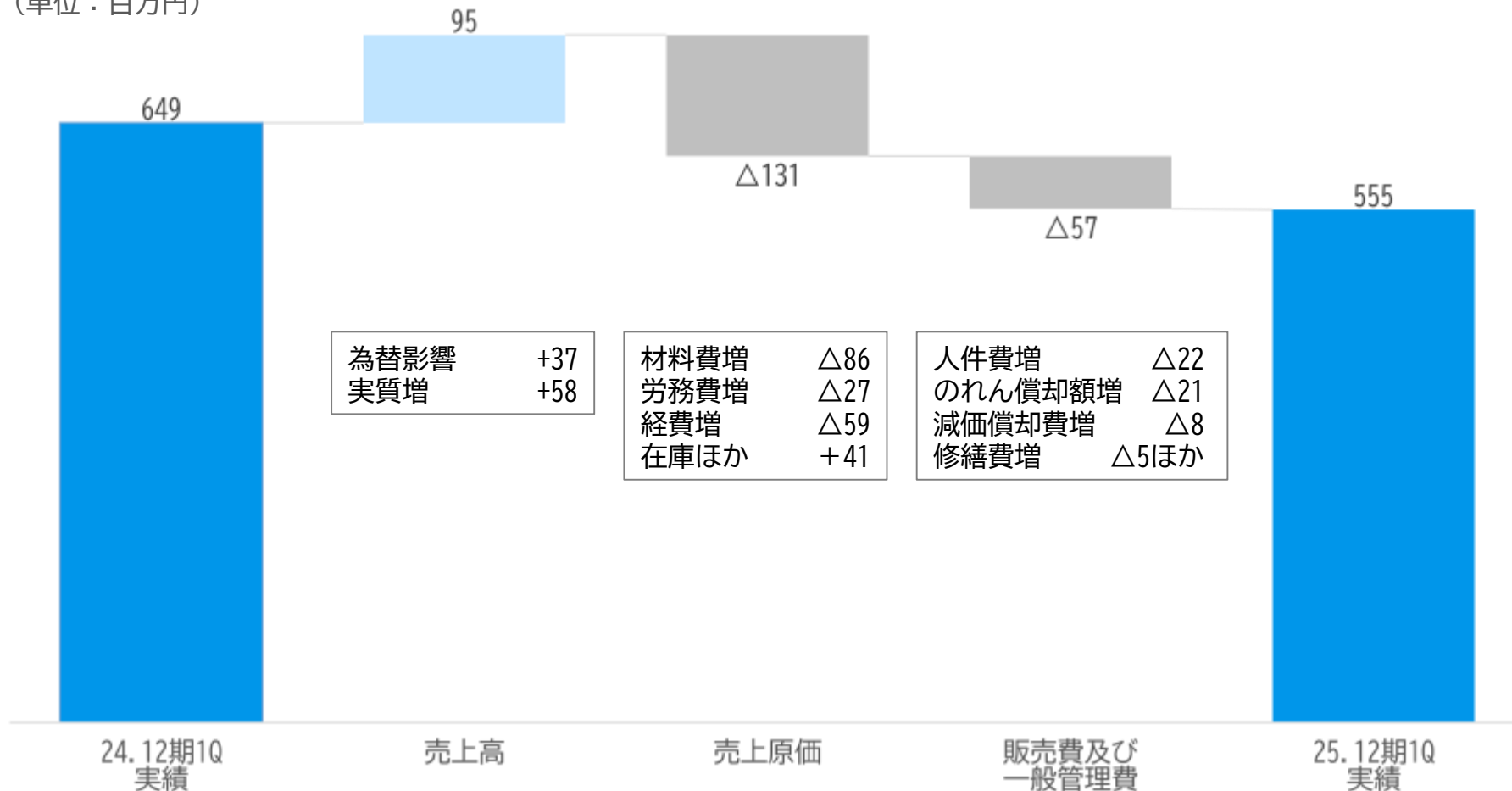
※プロジェクトの更新情報は公表データから推定したものです。

セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因（前年同期比）－ 光部品・デバイス

売上はプラスを維持したが、プロダクトミクスの変化と2Q以降に向けた作り込みの影響により若干の減益となった

（単位：百万円）

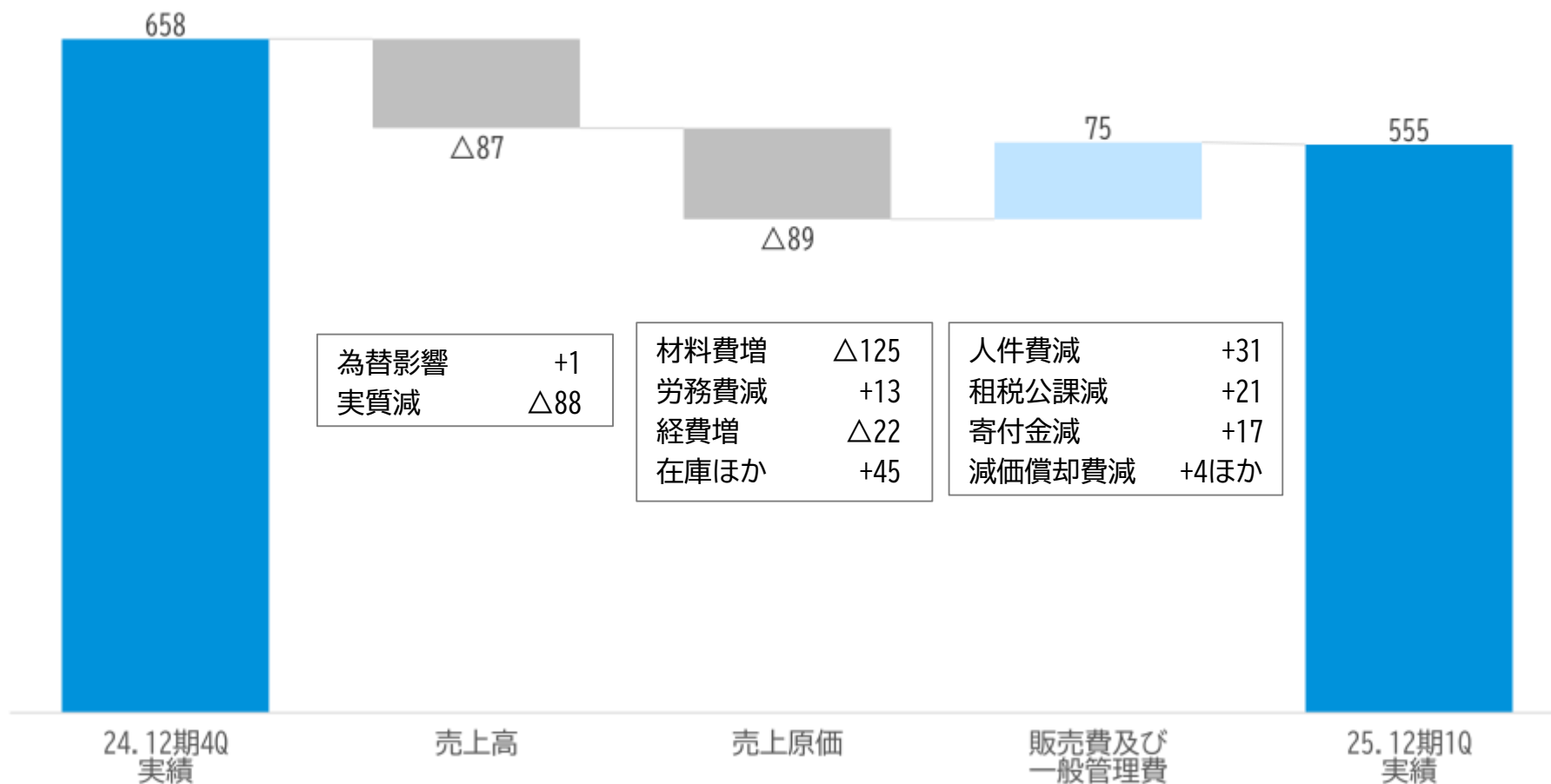


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因（前四半期比）－ 光部品・デバイス

売上減少に加えて2Q以降の受注増に対応した作り込みにより材料費が増加、若干の減益となった

（単位：百万円）

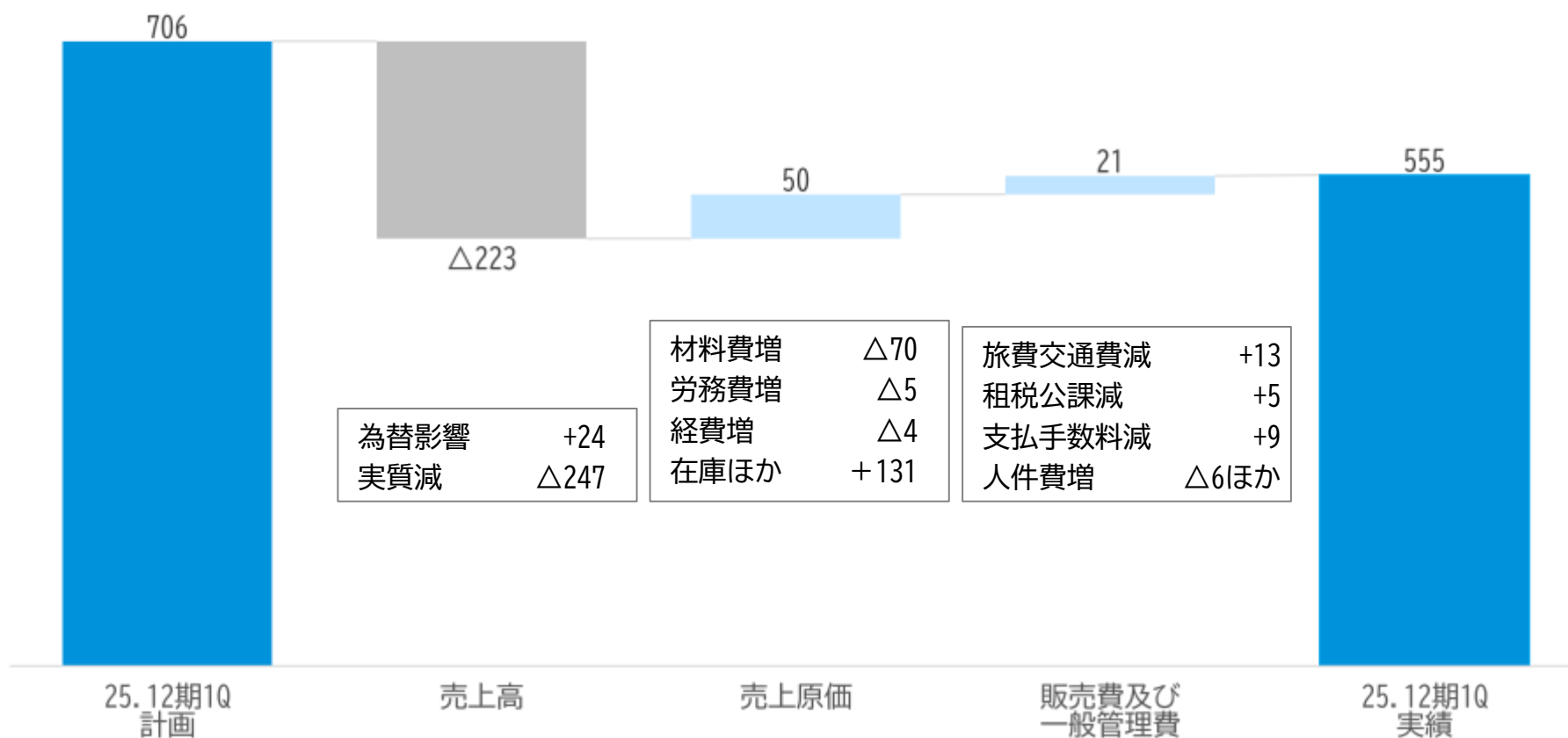


セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因（計画比）－ 光部品・デバイス

売上の下振れにともない、利益も計画を下回った

（単位：百万円）



光部品・デバイス事業の見通し

1Qは当初計画に対して下振れ、2Q以降の回復を見込む

セグメント業績

(単位：百万円)

	2024年12月期	2025年12月期（通期）					
	実績	1Q（1月-3月） 実績	上期予想	下期予想	通期予想	対前年増減	前年比
売上高	7,520	1,580	3,846	4,775	8,621	+1,100	+14.6%
営業利益	3,536	555	1,594	2,245	3,839	+303	+8.6%
営業利益率	47.0%	35.2%	41.5%	47.0%	44.5%	△2.5pt	—

2025年12月期1Qの状況及び現時点での見通し

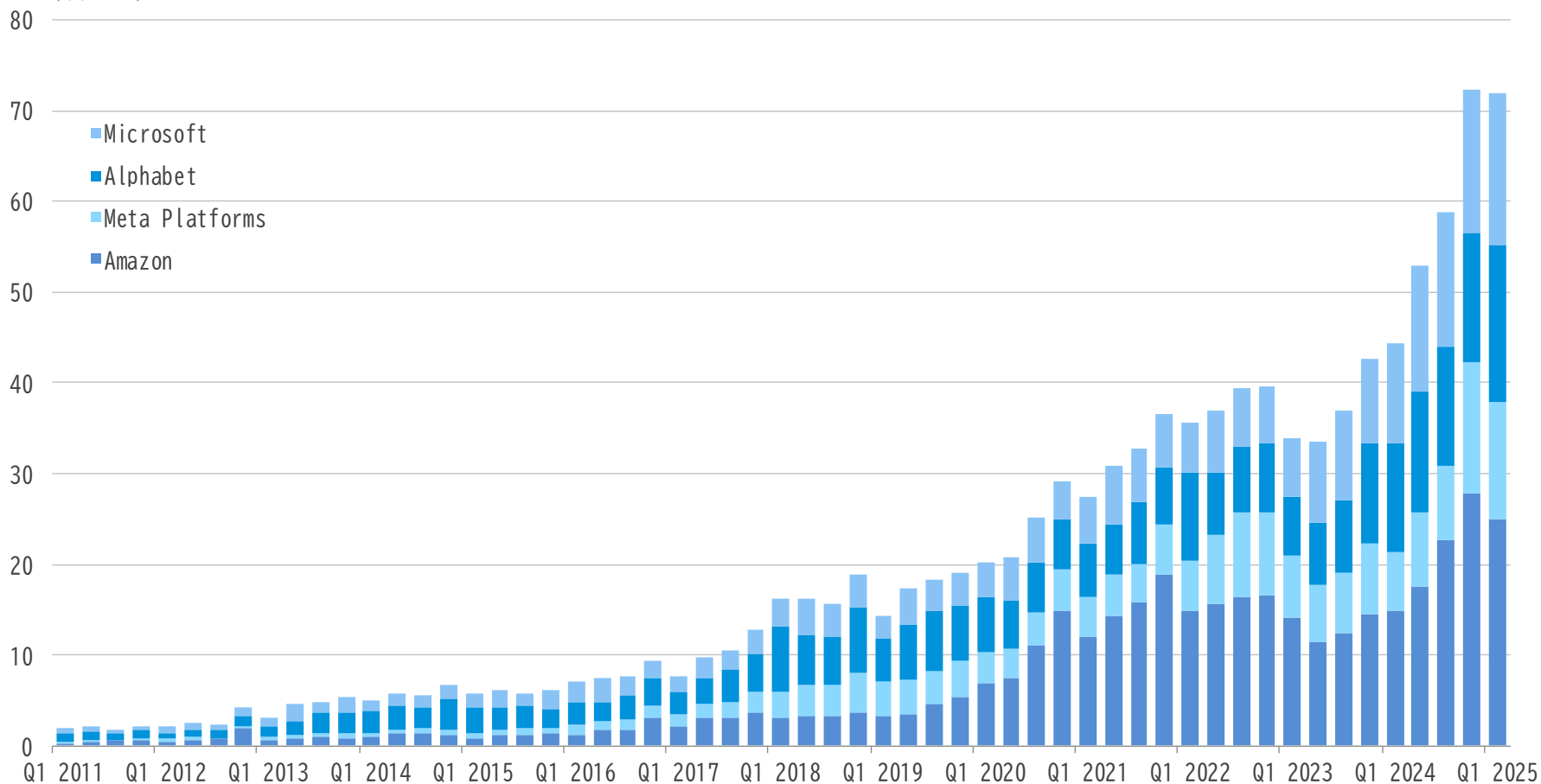
- 1Q実績は期初計画に対して下振れしたが、2Q以降、売上は回復の見通し
- 海底ケーブルプロジェクトへの投資は引き続き好調
- ファラデー回転子は引き続き生産能力を強化、売上が伸びる見通し

2025年12月期(1Q)までの事業環境

米国クラウド事業者の設備投資は活況が続く

米国クラウド事業者の設備投資

(十億ドル)



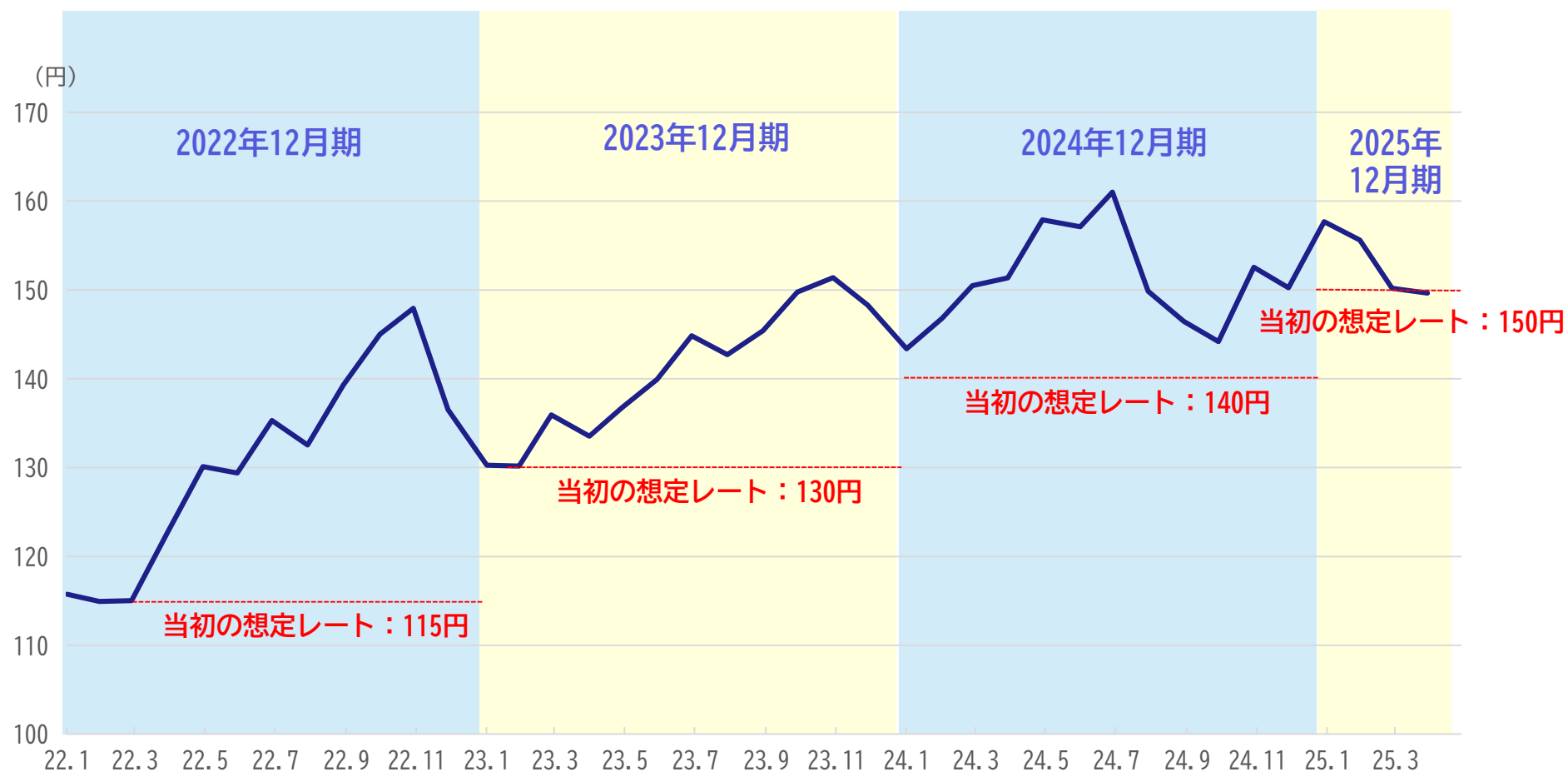
(出所：会社資料)

Ⅲ. 参考情報

2025年12月期(1Q)の事業環境

1-3月の期中平均レートは、152.56円/USD、前期末158.17円/USDから円高傾向

USD/JPYトレンドグラフ



外部環境 - 非鉄金属相場の動向

非鉄金属の市場価格は大きな変化はないが、為替動向、世界的なインフレの影響を受ける可能性

非鉄金属相場（LME）の推移

アルミ価格の推移



銅価格の推移



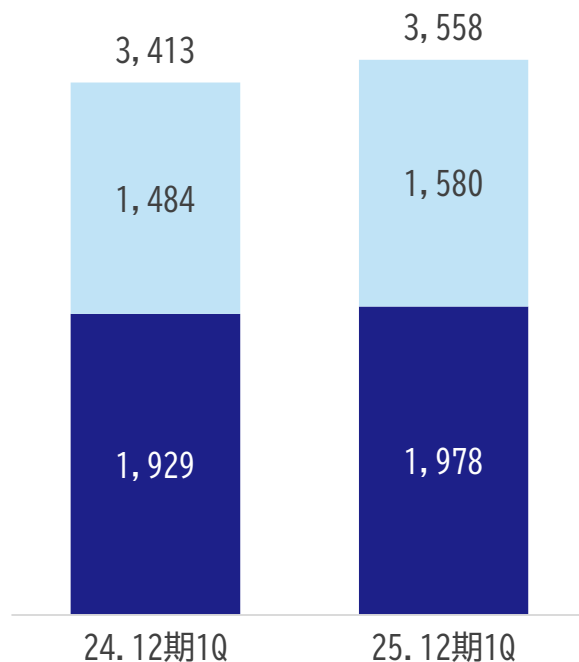
錫価格の推移



セグメント別業績及び国内外売上高比率(1Q)

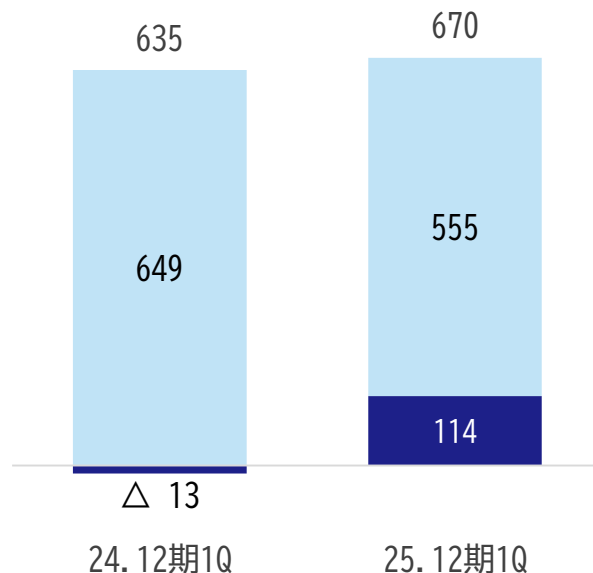
売上高（百万円）

光部品・デバイス事業
リード端子事業



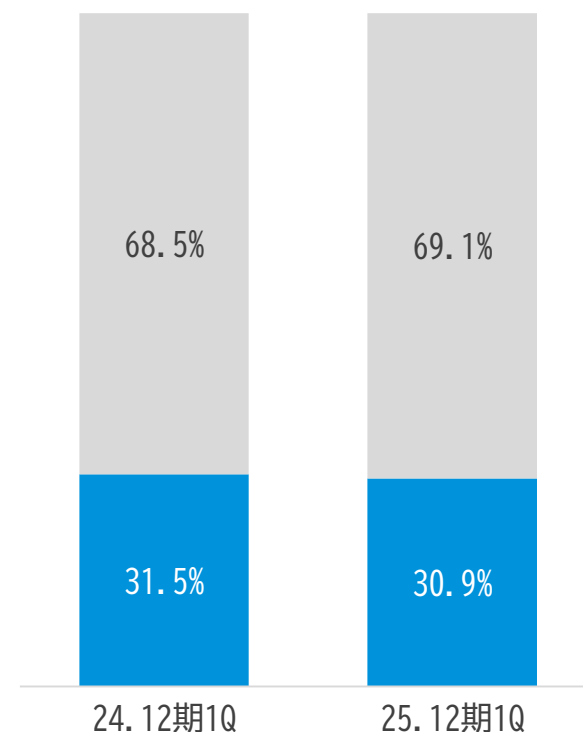
営業利益（百万円、%）

光部品・デバイス事業
リード端子事業



国内外売上高比率

海外
日本



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によりこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

湖北工業株式会社 広報・IR担当
E-mail ir@kohokukogyo.co.jp
TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217